

第2期北区地域福祉計画

取り組みの3柱 令和4年度中間見直しにおける付帯決議

取り組みの柱① 地域でつながり支え合う活動の支援(R4付帯決議)

①-1 従来の対面による地域福祉活動か、オンラインによる情報発信・収集か、といった二元論ではなく、両者のメリット・デメリットを精査した上での、ハイブリッドな地域福祉活動をめざす

①-2 “継続は力なり!”をモットーに、行動制限の緩和に即して、最大限にリスクを押さえつつ、地道にこれまで築いてきた公民相互の“顔の見える関係(支援ネットワーク)”の回復・拡大に努める

取り組みの柱② “きめの細かい”相談・支援の充実(R4付帯決議)

②-1 社会的孤立を解消するためには、行政や福祉施設・専門機関等の多職種連携と、公助(行政・専門職)と地域住民が連携協働して取り組む地域協働を進める

取り組みの柱③ ふくしのまなび(R4付帯決議)

③-1 キーワードは“対話(話し合い)”住民一人ひとりの生活課題を身近な問題としてとらえ、住民と関係者等が連携・協働を図りながら解決するための話し合いの場づくりに努める

今後の課題・進め方 令和4年度中間見直しにおける付帯決議

◆地域活動について

多様な福祉活動への参画、地域との交流を継続できるような環境づくりの進展、地域活動の情報共有の活性化によるモチベーションの保持

◆きめの細かい相談・支援について

様々な専門職と連携したアウトリーチの強化

◆情報発信について

ICTの活用と併せて、高齢者や障がい者など情報弱者に対する従来型の情報発信(広報紙や広報板など)の継続

◆今後の取組方針 めざす3つのゴール
①タスクゴール…当初目標の達成をめざす
②プロセスゴール…行政、専門職、住民の信頼関係形成により強化を図る
③リレーションシップゴール…地域福祉ネットワークの拡大と充実

令和4年度 地域支援連絡会議の今後の方向性「多種職連携」、「気にかける」

①あらゆる福祉課題や社会問題につながっている社会的な孤独・孤立を解消すること

②きめ細かい相談支援の充実で社会的な孤立を解消するために連携協働が必要

③孤独・孤立を解消するために連携すること、『気にかけて』いくこと

④まずは、お互いの仕事や役割を知り、認め、尊重し合うこと

⑤北区地域福祉推進会議で意識共有し社会的な孤立の解消のための取組・発信を促進していくこと

令和5年度 地域支援連絡会議 グループワーク「気にかけるから気にかけるあう」

①行動や取組の内容、②課題と感じたこと、③連携・協働について、④工夫・改善点・アイデア

令和5年度 地域支援連絡会議の今後の方向性「気にかけるから気にかけるあう」(案)

『つながり』
・つながりを意識化し、つながる範囲を広げ、次期ステージを作っていく。
『気にかけるあう』
・意識を持って接し、お互いに「気にかけるあう」関係性を広げていく。
『連携』
・顔見知りを増やし、つなぐ・つなげる関係性を構築していく。
『取組・情報発信』
・地域や活動主体に『気にかけるあう』取組や情報発信を促進していく。